

東北大学大学院情報科学研究科

	学際的研究プロジェクト支援経費 実績報告書
タイトル	「メディア研究機構」設置プロジェクト
主 催	「メディア研究機構」(代表：関本英太郎) 東北大学大学院情報科学研究科メディア文化論研究室内
目 的	「メディア研究機構」は、マスメディアの不祥事が跡を絶たない中、改めてその使命・役割およびありかたを検証するためにメディア文化論研究室スタッフを中心に設置したプロジェクトである。その際広く東北大学より募集した「機構」メンバーは、理論的考察のみならず、ジャーナリストやテレビ局スタッフの協力を受けて実践的作業に取り組み、将来的にマスメディアにて働くために必要なスキルを磨こうとする。
企画 1 2005.11.5	平成 17 年度における取組は、以下の通りである。 「オープニングイベント『メディアを学び、メディアを使いこなそう!』 講師：水越伸（東京大学情報学環）他「メル・プロジェクト」スタッフ 3 名 会場：川内北マルチメディア研究棟
内 容	同じ事件、出来事が、テレビ、新聞、ラジオなどメディアの違いによって伝え方がどう異なるか、実際に番組やニュースを作って経験的に学ぶ。(参加者：約 30 名)
企画 2 2006.2.24	「学習会(1)『テレビ番組が放送されるまで』 講師：長南昭弘（TBC 東北放送） 会場：せんだいメディアテーク 7F
内 容	ある番組を題材にし、テレビ番組ができるまでの条件やプロセスを学ぶ。 視聴者は出来上がった番組しかみないが、実は出来上がるまでにいろいろとドラマ、苦労があることを理解する。(参加者：15 名)
企画 3 2006.3.15	「学習会(2-1)『ジャーナリズムの今』 講師：寺島英弥（河北新報社論説委員） 会場：せんだいメディアテーク 7F
内 容	「シヴィック・ジャーナリズム」論を執筆された寺島氏なりの視点から、現在の新聞の問題性や課題を論じてもらう。その際、実際の記事を批判的に読み解くという、受け手のリテラシーを学ぶ。(参加者：15 名)

企画 4 2006 . 3.29 内 容	「学習会（ 2 - 1 ）『記事を書いてみよう！』」 講師：寺島英弥（河北新報社論説委員） 会場：せんだいメディアテーク 7 F 今回は、受け手のリテラシー。今回は、批判的読解 + 自ら発信というメディア・リテラシーの定義にしたがい、参加者にコラム記事を書いてもらい、実際に何が伝わるのか、伝えたいことが伝っているのか、など分析し、送り手のリテラシーを学ぶ。 (参加者 15 名)
その他 の企画	関連テキストの講読、「東北大生のメディアについての意識調査」アンケート、映像番組制作などに取り組んでいる。
情報科学 研究科に とっての意 義・貢献度	高度情報化社会、デジタルネットワーク社会においてメディアが多様に飛び交う中、中心となる議論を形成するキーワードとして「多様な価値観」「双方向性」「民主的な議論の場」が挙げられる。現役のジャーナリストやテレビ局スタッフと協働で取り組む「メディア研究機構」プロジェクトにおける活動は、まさにこの現在の課題を解決する糸口を見出そうとする理論的かつ実践的営みであり、情報科学研究科の発展に寄与するところは少なくない。近い将来、組織強化のために、他研究科研究室と共同して取り組むことを計画している。